

## 第4学年 社会科学学習指導案

奈良教育大学 社会科教育専修 3回生 北野結衣

### 1. 単元名 『高知の水害から身を守るために』

### 2. 単元の目標

- ・水害から人々を守る活動として、地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや今後起こり得る自然災害にあらゆる備えをしていることを理解できるようにする。

(知識・技能)

- ・過去に地域で発生した自然災害、関係機関の協力などに着目し、災害から人々の命を守る活動とその働きの意味を考え、地域のもつ課題に対し、自分たちにできることを選択・判断したりして、表現できるようにする。

(思考・判断・表現)

- ・自然災害に対し、自分たちにできることを考え社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、他者との繋がりを大切にしようとする。

(主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

本教材は、学習指導要領第4学年の内容(3)自然災害から人々を守る活動のもと作成した。高知市には鏡川をはじめ複数の河川があり、過去には氾濫している。高知県の年間降水量は全国で最も多い。毎年台風による被害が出ており、水害と密接に関わっている。対策は施されているものの、予測を超えた降水も起こる可能性がある。

高知市大津・高須地区のほとんどの家屋が床上浸水した1998年の高知豪雨と2019年台風18号による被害を比較し、対策について学習する。地理的条件と照らし合わせ、今後起こりうる水害への備えについて考えることは減災の視点から意義深いと考える。本単元を通し、児童が南海地震への備え同様に水害への危機感と対策を考えようとする態度を育てていきたい。

#### (2) 児童観

(省略)

#### (3) 指導観

本単元の指導においては、学習する社会的事象を自分事として捉えさせることを大切にしていきたい。「誰も取り残さない防災」を意識させるために、大雨での場面を設け実体験と繋げて考えさせる。過去の水害を振り返り、その経験から施設の整備などの水害対策が行われていることを確認する。本時の指導にあたっては、2019年10月に発生した台風の被害を取り上げ、対策をしていても完全には防げないこともあるということを意識させる。高知市には鏡川と筆山があり、数年前には川が増水し浸水したことや土砂崩れが発生したことを伝え、自分事として捉え、防災意識の向上につなげていきたいと考える。

#### (4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

【連携性】 人々の助け合いにより、今の高知市があることに気付く。水害が発生した際に、人との繋がりが命を救うことを考えられる。

【責任性】 水害発生時には、自分の役目に責任を持ち、行動していることを考える。大雨の際の行動について考え、進んで声掛けや備えをしようとする態度を養う。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

【長期的思考力】 洪水ハザードマップから大雨が降った際にどの場所が危険か予測する。

・本学習で変容を促すESDの価値観

【世代間の公正を意識できる】 これからも安心して住み続けられる町にしていく。

【世代内の公正を意識できる】 減災を意識し、備えることや繋がりをもつことが大切だ。

【人権を尊重する】 命を守るためにはどう行動するか考える。

・達成が期待されるSDGs

11.住み続けられるまちづくりを

17.パートナーシップで目標を達成しよう

#### 4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①高知豪雨の被害と近年の水害について理解している。 ②過去の水害を活かし、関係機関や人々が様々な備えや対策をしていることを理解している。	①関係機関の協力に着目し、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現している。 ②地理的条件と照らし、水害から身を守るために自分たちにできることを考えている。	①学習したことをもとに、今後起こりうる水害について、関心をもち自分たちにできることなどを考え、進んで行動に移そうとしている。

#### 5. 単元の指導計画（全8時間）

次	主な学習活動	学習の支援（・）	評価（△） 備考（・）
一	○大雨が降った際の行動について振り返る。 ○高知の水害について知っていることをあげる。 ○高知豪雨と2019年の台風18号による被害の映像を視聴し、その違いを考える。 班→全体 ○関係機関が行っている対策を知る。	・大雨が降った際の実際の児童の様子を取り上げる。 ・豪雨の際の写真を用意する。  ・同じくらいの降水量であることを予め伝え、違いを探すよう促す。  ・教科書やインタビュー記事を読み、高知豪雨の反省が活かされていることに着目させる。	   △ア①   △ア② △イ①

	<p>○洪水ハザードマップから浸水地域であることに気付かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関が対策をしているから安全であると思わせないように、2019年の台風について適宜振り返る。</li> <li>・過去の水害の話と合わせて、川の氾濫だけが原因でないことに気付かせる。</li> </ul>	
二	<p>○校区内の水路をたどる。</p> <p>○水路をたどり、気付いたことを考え、マップにまとめる。</p> <p>班→全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震の学習の際に作成したマップをもち、危険な場所に印をつけるよう促す。</li> <li>・水路から内水氾濫する危険性が高いため、水路ごとの違いに気付かせる。</li> <li>・道中、地域の水害対策があれば写真を撮っておく。</li> <li>・地震の学習の際に作成したマップに情報を加え、大きな防災にすることを予め伝える。</li> </ul>	△イ②
三	<p>○大雨で外に出られない場合にどうするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警報発令前、発令時に分け考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南海地震同様、水害への備えや対策への意識を高める。高知県は年間降水量が全国1位であり、自然が豊かな場所であることに触れ、水害に伴う二次災害についても考えるよう促す。</li> <li>・ワークシートで、比較しやすくする。</li> <li>・イメージを持たせるために写真を貼る。</li> </ul>	△イ② △ウ①
四	<p>○実際に声をかけたことで、被害者がゼロだった事例を紹介する。</p> <p>○自分以外の人が出かけようとしている場合、何と声を掛けるか考える。</p> <p>○自分の水害対策や水害に対する意識について振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年7月の西日本豪雨による事例を紹介する。 (愛媛県松山市高浜地区)</li> <li>・家族、地域の人、近所の小さな子供など場合に分け考えさせる。</li> <li>・学習前との意識の変容に気付かせる。</li> </ul>	△ウ①